



花傳巻八

多12  
1.544  
7止



門多12  
1544  
止



すう響古の柔く大形は巻よ志るを凡能藝を  
に—をまんと思ふ人の才一のいま—めあり  
才一—好氣博奕大酒三重戒乃古人持たぬ  
響古いつよう道淨穢のありき風姿花傳り  
をわく大才七氣をもちて—めとすは比の  
能のけのこりあ—はも物自然と次才一  
こもはゆ—う風評あはし舞た—うき乃君  
者曲り—いつうき居るあともあも志ひ  
—う—うらんをま—せて—うのま—よせ  
—ん—し—さの—あ—とを—ゆ—う—  
あまりよ—う—う—う—う—う—う—  
—う—う—う—う—う—う—う—う—  
—う—う—う—う—う—う—う—う—

御くも能いとまらなわくも高曲くもまほし  
あましくしていせさまへゆくひさこのもゆもの  
またたどひまへくともをへまへきなり  
大庭なまの申樂まはらつて三番四番九  
何分乃よりくまもるめはせん風我さまへし

十二三筆

一これ幸れくありいともやうく初も  
調子りかゆり能もくろはくくろあまハ  
次第くも物敷をもをへへへへへへまら言形  
あまの河とくも事も幽玄なりく急自在  
なり二乃たよりあまのいふはき事いかにれ  
よき事いふゆき花めくらたかちこれ

さゆめくよまのこまなる物まよあまみせ  
さまへへい尚度も似合と能もあくるぬき  
なりくも堪能なわぬきい何とくも上ま  
く家へちことひる急とひ志とも上ま  
まへへあまのさるくもききりあまは花の  
ままのの花まはあまのいふは乃ともあなり  
あまのいふ時分れけりこまへてくやまき世  
さゆめくよ一節の能乃まこめまは成まき  
なり能藝古やまきとくも花子あてくわき  
をもちやくも音曲をも文字まきくも  
あまの舞をもよばくもあまのてき古  
まへへ

十七八歌

一 ばうろのあまなり乃るのよめて誓古の心あはれ  
 先かろかりりぬまの牙一の花うせたりはま  
 うしたうみなりたまのあわうきてたころり  
 ぬまの氣をうらまふ結句見る物もけ  
 なるをき見ぬる事もらうきとやは是  
 退屈するなりは比の誓古のたひ人よ  
 たはれともしるまをかんりみきしてぬ  
 了急のとくかん調子よて一節乃さくひ  
 なるいとまやうくいよりけて能をきてぬ  
 かい誓古あるうらひとこりぬまの  
 能とまると熱く調子かろり

二十四五歌

一 ばはよりそ一期の藝能さこまるまめなり  
 ち程よけのこれさうひなり急もさ  
 かななりさうこもさこまふ時分なり  
 なる二の乃果報あり急と牙なりは二  
 ば時分さこまるなりさうりりむくひ  
 能乃成就とらとら也さ法也とみ上  
 きころとて人も目よら法也と名人  
 あまとも當座の花よめらうてたあひ

勝負めも一旦うらつ時ハ人も思ひ未けん  
上よと思ひ志むるなり人すくすく  
あひこ也こそ是れ花はあはれ年一  
さうりともみる人の一旦うら乃めつ  
むなり志実乃目きくハ見已けん  
むこそ初んとすなりをききめくる  
ぬののたひひてもあきあきあう  
里ん世例を仕部一うなる風神を  
あさましき事なりたも人ハ人も  
かとも思ひとも思ひ一せんめつ  
なわと思ひさしむるもあま  
定め名をたたらん人よきを  
けりころやま一はせん  
まもこの花と志るころハ  
さくもいなり只人ハはは時分の  
あはれ花のうまるをも志る初  
ころの事なり一あし事して我位  
のちと後  
うらくハねねいそちとの花ハ  
位うりう人の上よと物もハ  
位の花もうする也  
三十四五峯

一はころの終さうり乃きんめなる  
あしきなめさとりて堪終  
天下よゆるるも名をたたらん  
あはれ時天下れ

ゆるり進い不足よ名望も思ふかともあぐい  
つらあ家上手なわともいませぬの花をきく  
めぬ仗手と云へしを頼よあぐ家の三十四又  
まてのはさり家ハ四十の果の事也あぐは比  
天下乃ゆるき進を依もい能をきためつらと  
思ふ今この愛まてなを依いむへし比ごろ  
きまめいはいはは天下のゆるき進をえんる  
返こくごうろへしははいるごろをたがえ  
まごゆるき乃まてなをもきとあなり

四十四又歳

一ははより能のまて替る画了たとひ天下み  
ゆるされ能は得は志こわたりれよあぐまてな  
ゆるき乃き乃仕まをもつへ能いさつらひ  
ちりくあぐやうく年一けぬ進い牙の花  
も能取同乃屯もうするなりまらまくれは  
表男の志しはよきかとの人もひこ面れ申樂  
年一りりていみくまね物なりを頼りこれ  
一さひりけりりこれらよりいさのこは  
りなる物まのいもまきなり大か都合する  
評をやまくとちの城おろて馬きの仕まよ  
屯をよこせあひらひてもろくとまへ  
たとへは馬きの仕まあらんりつきてわ  
あぐのまらよ牙をくき能をいままき也  
あふとては中月れ花のあぐりい比はまて

ふせさうそ花をそましくの花よてまへきれ  
るまゝ五十ちかくまて失さうそ花を指さる  
は手あうい四十お集り天下乃名聖城は  
へしたとひ天下のゆるしをぬるまて  
とも左様の上手いもに我身成知行へけ  
行く身の上手をたあそこのまり身を  
くさきそあんの見ゆへき能をすまきなり  
うやうはちるそはゆらる人乃んあるへし

五十景

一は比よりいおかうこそぬあうていふそい  
あはまー麒麟も老ぬまの鷲馬よそとふと尸  
事ありきりなりまよにゆたらん能志

たういお敷うせそ善悪見ととあいよくあ  
とも花いのふへー亡父よそとひーもの  
み十二とや五月十九日は死せしり五月乃  
四日駿河の國浅君の侍あまては樂つまつり  
そ目のさふかくもに花やうめて見おの上下  
一月よやうひせしなり凡そろ物うはをい  
初いよゆつりてやすきととろ成すくあく  
繪てせーうそ花いのやまーは見えーなり是  
海もにぬらる花なるうゆへは枝葉もま  
まろ老木ふあはまて花ちうてはありなり是  
まのあうりよ老骨よはありの落粉也  
一うへひをーゆる事ー先をうひる人の口はき

とつぬあひひとの師匠たかく調子をうわくひ  
あしひら人のひきくうふ物をわも子細い  
いまこ念点ゆきくらねるの師匠乃うまを耳よ  
まこう道をふくく似る也存ふ人のたぐ  
つげ久い字章のうらひよまき進師匠乃ふ  
んくよつすんきやうよる合少一紙なをま  
事一あしぬ物をわられうらつげ肝要よ  
まこあしひは人大くこ口流きんよ志こくひ  
次才くよひきく習ひん人よたわくうこ  
するもの也習ひん人のうらひのよ一あ一紙  
まこ入あをーんため也

一と昌のまうひやう二つろよまこ一うらひの

中をわくひとの曲をわけて文字うつり歩をい  
う所くくはくはくきくまこうこあ人の  
少一をつけて文字紙わうつへま事一文字よ  
よわてわわよ成てふ書くく一ううつり乃  
文字くまりのすを換よ少よくてゆうくと  
よ換よ少一をいつげよわわうてうこあまき  
うれ曲をわけてうこへい曲乃はけやう  
相應してよきをわわのろきかかんああ  
志くまいくく少一の付やうをわてうこひの  
まろせとひ文字う解りなのうけくすもふ  
こわれ曲よ似合ころりわわらばなるなり  
あーいりこまわく里い文字うつり曲い也



おらきしきも氣もたぢーもあふしきよくと  
 つく同ー文字をきともいふ時の習ひやう別  
 存り警古よいたくかろ振りをきそ曲を志  
 曲を忘て調子を志也調子をわきれて拍子  
 志進とつくり又深をあうあ柔くまら文字を  
 れかゆるるも及ふしときたむつるも次  
 曲振のろと家事しき及し急乃くくわを志る  
 事しき及くあぢとせもつる拍子の初中後へ  
 わるるへき事かんとやうなり

一し急をけりふ事かろ此むきころ時を  
 おらきと急乃くさりあくとくするもけりひ  
 ころは薬をのむへし急乃よくある

けりあも也かろをけりふ事しき急乃むきよ  
 よけへし又氣力もよけへし横の急を  
 れまけてけりひ急乃急をいにてけりふ  
 へしかろはけりつれてよき急ありこ急を  
 けりひてよき急ありへし横急ともよあり  
 し急茂ありをんとは尸なり宵曉の事しよひ  
 よは物敷をけりひてありつきよむすく  
 なくけりふへしとき横の急あとな  
 曉の急よけりまけて急茂のりりておき  
 めて急をかんふつりふへし急のむき  
 くる時とけりけりふへき物なり急を  
 けりふはよひは曲舞五のちり調子よく





さゆ時分をさしひつふもわらうき花やうり  
い持んそてハ藝わうき時乃まおよもきとえ  
見こぬまのなわ六十すき徳藝斟酌まへ  
う道をまそわくくして七十まへも藝をまれい  
わうき時乃わがえまそくまふ物なりみ  
いほへし

一 能をいゆ事一 妻よ仕舞哉をいへよさて  
やうく仕舞わがえくう時二 妻よ才なりを  
才をせ扱くせの大才ふをわくるとき仕舞の  
位をくわようやうは位をわけてをいへ  
事師通する志の秘事也一 妻より百多も  
えうけふをいへく六十才よくれうて覺る道也

退屈しハ藝わをいへ物也びいけ肝い也  
二三番ありうてうり製末面やくまをせ製末  
あつうひ面位数をいへ

一 笛ハ才一十二志うりをわがえさせよ才二  
うつりをあてせ才三 鼓をわがえさせよ才四  
ううひわがえさせよ才五 仕舞いを知せよ  
とくく才一 仕舞心をくハ才乃少きわいり忌  
とくうろまうくたうへ言ハ漸く入へし  
返こかす作まて吹をうつぬ物也維志くく  
あうひわがえさせよ才五 仕舞いを知せよ  
一大小竹よつてをいへやう乃事まらかまへ  
くせあわうり屋了志のぬつ数を知んよ

たかえさせせて小ほく見うち覺たしんときま  
あがり鼓をせよあがりて鼓乃書ちうふ  
もの也それみくひときいほくありてきこ  
ゆるもの也さうき次まかま人を存鼓をへし  
又りま人を里りんいんゆらん鼓見事ノよ  
みしる物をりうれつきみくせ鼓をせうれ  
のちふやう急鼓をすへしつゝありわら程  
自然とやう急いひとわりありる物也さうめ  
位こよをへあけらてよりあち位をほくふ  
急しまつく大才の次才はふ也うめ初心  
まわり何色のも一交よをへる人いろ進り  
あがりほくみありぬなり又をそく本をへ

えいんせ身なりをへる見あたるせの時分  
うんようなり

一太鼓をへゆるは是も大あつてもと回あなり  
先うめ二三番程わがゆるうちいよろほ鼓  
ををきんしうちわがえさせに付る時分よ  
まちの持やうかま人鼓をへさうきほけ  
し急をおをへる次まくせを急鼓也ちやく  
くせををへる人いろ進りひるまそけいハ  
あがりぬ物也ほ雨こよ急をうへまへ  
うめ地うふおかえさゆうちりまを  
をへるうへ太鼓のわらありくなり板  
端こゆるゆきる時分よ味鼓をへあち大形

ゆきうらおちりし 位ををゆへしうやう此  
位と見合肝要なり

一 狂言をへはるすまらるしめ初心なる時の  
ゆき色おちりく人乃らるひんやうよをへ  
と物也さておち狂言をも志れかえ如形仕人  
時あまりまうしき事うくし乃らき狂言  
ふをを入面白きをませへしそはちや年も  
ゆきうらんゆき志てと尸時のゆふも抱すく  
たふうしあしあき横る志んうしてたつま  
よりしきことを入とのとつふ横るまらること  
是上よのわき也 狂言の次才大才めは  
一 ふうたの 狂言の事ゆきよも心のむきんの時

なまふへし 氣乃むらき候付けらこする事  
ここのおの流藝乃毒なり

一 狂言の役志のお人をあまし 狂言の座敷へ  
よりらりぬ抱なり才一人進りまうて 狂言  
さうぬものなりらるし 狂言よりものあ  
狂言よりけみとらるあき物也く人ま  
志らうとあまよまれいけいよ抱しうき  
あけ進いりこらきあくものあしりあとする  
ものなりつあもけいひううあまるものなり  
才一為のうち言の中なるとりけけいこ  
志む抱なり地うらひ二三入調子ひきく  
とせつこ拍子は節よてけいこまへ大勢

あわていたやーよまきまを越さ進まらん大お  
おかえらて中のおとしめくけいこまへし

一 狂言のあひの事申入の仕手乃いつてうらも  
かえらんよまれ入よはあかくあうは物なわ  
よまのゆりんまねたま乃ううらん乃あひい  
うーかくある物なわうれこあうけ肝要也

一 ねさあき物よ能をゆる事あまわりふいひ  
うる能張をへまーき事也又おもてうけ  
すしてゆい乃あき能同おなわううみえ仕舞  
れあきよをゆーゆーあまわりこまうなるもの  
まひいせさひまーき也

一 惣古よりあーき役志うてまひいりこしとれおの

毒をわ仕舞よりきくらひ大つこ小けと箇をよ  
えろきあひよとたやーうの藝もさくうりそ上  
わろきくらせおま物也似合うはあひよ惣古乃  
ときころまーくよある物あて作らまこととやま  
へしわまーくあひうんとあひてよなわかすい  
ころ道才一のくすわなわぬと殺らわよ志こと  
あひてよたわんやす事物あろくまーくを  
まらまへし才一の毒といはるる也

一 惣古よ潤子たわくうこつぬわあなわうこひ  
けいこたうそ平潤むよものふけいこあうい  
双潤志うはへくも

一 惣古のうちよ能うてもううひもてもん屋

一 能の仕舞けいこれより小袖を流かおりまひ  
 ち〜あ〜し又あは時いありてかぬよそしやひ  
 ち〜あ〜しさやうよらんい度姿舞と能との  
 たりりあるもの也所〜き舞よは仕舞をむく  
 あく〜ととを文白よ〜ろを付〜し拍子然  
 たくさんよあ〜教をまた所〜とをさるあ〜也  
 一 警古の時袋米よてまふ事〜め〜り物袋米  
 よてまふいあ〜き也三番ち〜もねかえ〜て  
 より袋米あ〜けい〜志やう〜くあ〜りひ  
 をもか〜あ〜し又面成りけい事〜右と同あ  
 二三番ねかえ〜り〜り面をけ〜れねかえ

〜

一 次才り〜地をと事〜す急乃の〜よは〜と事

一 能の仕舞けいこれより小袖を流かおりまひ  
 ち〜あ〜し又あは時いありてかぬよそしやひ  
 ち〜あ〜しさやうよらんい度姿舞と能との  
 たりりあるもの也所〜き舞よは仕舞をむく  
 あく〜ととを文白よ〜ろを付〜し拍子然  
 たくさんよあ〜教をまた所〜とをさるあ〜也  
 一 警古の時袋米よてまふ事〜め〜り物袋米  
 よてまふいあ〜き也三番ち〜もねかえ〜て  
 より袋米あ〜けい〜志やう〜くあ〜りひ  
 をもか〜あ〜し又面成りけい事〜右と同あ  
 二三番ねかえ〜り〜り面をけ〜れねかえ



くろ能を舞はて面位たかえへしきこあしぬ  
能をうしめし警古さるふめん城うけくろい  
うやうのらたよくらたてけいこせれいひと  
きハ藝能ありうこしとてや

一 けいみくちうハ自然とゆきくろくろりけい  
こハ初いましてくろのうけてよきる城きく  
そこあひ藝をしひきせたくはる才一乃あ  
き事一也たえハ名人の子あしよてよきるを  
志りくろくもそ才ハ藝初いるくろハ藝の  
うけちとふお應してしひきせへしお應り  
たつまきこひくろいもそあきあききり也  
一 座の能舞臺の能くろくも大更もたかきり

かワりありよく警古さへし大あハ舞臺あし  
すりわきい大ききくろくろと藝をまへし座を  
よていこまうふ藝成まへし

一 警古くろくろくろて物成らた人のよき藝志よ  
あひてのあしきあくけい城あ望もる事一是  
大きなるあしけなわあしきるをめてあ望  
する事一同あ也

一 物いなる人乃物進より上よなるけい城がう  
くんせぬものなり

一 警古をきくめ何よても一藝は法人の又あま  
こも危合余れ屋くよおる事一わくくいま  
めてまへしハ我牙の本藝とあきくなり

一つも太鼓笛等もしてまへけりい上をよめてかき  
あしくもて人のきこひに流ありた横乃藝志  
まは能をいともやさしくへりひそ人乃藝習ひ  
る事一人もよく無用なわよきこくハなわ  
くくくあききりいなわんてより一世の百  
うせりぬる物也たえいけいいあつきなりた  
よきあしを本と一警古きへ

一 ねきあき人よろめてをへは能のすお塩  
種政藝太鼓揚貴妃誓彩ち花月夜榮羽くろも  
あしりりあ玉母げねぢよん

一 流藝いこくき家時まよまり世仕交りしも  
るりしものお乃けい乃毒也くりそめれ一壺

一 ちやうもも藝をいりけり人の仕習安なり  
志つけく人の海ことの時りてたうは地也よき  
事一りあしすなわりりあききりいなる  
なわよくあせよくうせりぬる物也よき  
いむへいけく志むへし是よそてけいをえれ  
と一これをつひとおひひく人とは古人の中  
つこへら進る七は儀なり何事りり名人乃す  
なり進るるよあとなる儀いおひとともとわ  
りききりやう乃の持物ありくもまきの時愛を  
せんともくくあきこくくせたく也よも  
まくと藝ありぬ物よそくも進り依てこれを  
つよと思ひく人とはは儀なり進るは雨を

つひと思ひいふ人ハ思ひこふハ藝よりきさあり  
その時乃志よさお集る物有りこも道初心の人は  
物よりなきをへのかろち有り

大徳吉のあし三十五ヶ条は巻よりき  
志はハ惟是をあてよくはた日け徳吉  
と入し徳吉をまといとて只法ありけて  
あしふまてあてハ藝ハありくす  
はあきくゆく也よくそ分致はたて  
けいこまれハオ一なちやすくけいも  
ちやくありあものめくは

